

アブラナ科 アブラナ属

セイヨウアブラナ (西洋油菜)

Brassica napus L.

自生環境

土手、畑地、道ばた など

原産地

ヨーロッパ

予想される被害

駆逐



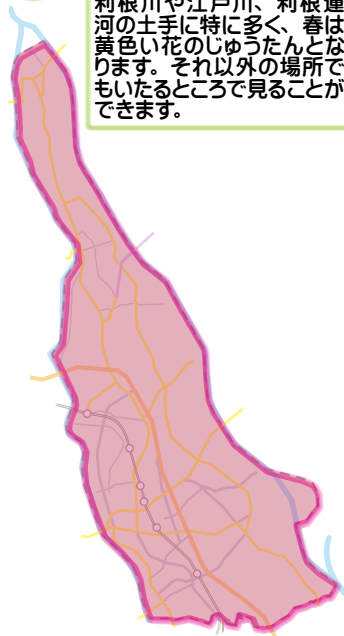
春に黄色い花畑となり美しいのですが、ほかの植物の生育場所はなくなってしまいます。また根が堤防を弱くする原因になるとして防災上の問題も指摘されています。

特徴

- ☆ アブラナの仲間はヨーロッパ～ユーラシア大陸に広く分布するもので、古くから栽培され、世界じゅうでさまざまな品種が作りだされています。セイヨウアブラナは、アブラナとキャベツが交雑して誕生したものと考えられています。
- ☆ 明治期にヨーロッパから導入されたものが野生化し、今各地で「菜の花」と呼ばれているものの多くが、このセイヨウアブラナです。葉は表面に白いロウを塗ったような感じで、やや厚みがあります。花期はふつう3～4月頃ですが、それ以外の季節でもちらほらと開花している姿を見かけます。
- ☆ 冬に根が大きく膨らんでカブのようになります。春の開花結実に向けて、養分を貯えたものですが、カブとは異なり、かたくて食用には向きません。

市内の分布状況

利根川や江戸川、利根運河の土手に特に多く、春は黄色い花のじゅうたんとなります。それ以外の場所でもいたるところで見ることができます。



菜の花と言えば…

じつは、分類学上ナハナ(菜の花)という種の植物は存在しません。アブラナ科アブラナ属に分類されるいくつかの種類をまとめて、そう呼んでいるだけなのです。その代表選手となっているのがこのセイヨウアブラナです。かつてはアブラナ(在来ナタネ)が栽培されましたが、今は少なくなりました。最近では、ハクサイの改良品種で冬のうから咲く「寒咲き花菜」も人気上昇中です。



花びらは4枚。十の字の形につく

葉の根もととは茎を少し抱く



この中に小さなタネがたくさん入っている

花の後、棒のような果実が穂になってつく



葉は厚みがあって、白い蠟のような物質で覆われる



冬の根はカブのように太くなる



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

